

21 世紀のラグビー 胎動から発動へ

21 世紀のラグビー胎動から 10 年を経てようやくその発動が始まりました。2006 年は 1960 年代に始まった現代ラグビーの第 2 段階にあります。1990 年代後半の動きとなって見え初めました。優勝者を決める制度と、勝利至上主義に直結すること以外は顧みない風潮に対する反省が、ラグビーに対する飽きたりなさとなって、新しい視点で、試合の現実とルールを見直す動きが形となってきました。動きを読み取り、目標設定の一助としたいと思います。

先日 iRB の OFFICIAL WEBSITE に、Rugby Law Reform Project として The Laws discussion group のことが報じられているのによいよだなと思いました^(*)。その思いとしては、

We are looking at the game in a new light with the idea of making it simpler and easier to play and referee, and to ensure Rugby is understood and enjoyed by the increasing number of spectators that are being attracted to the game.

と述べ、タックル、ラック、モール等の規則の問題点を批判見直しに着手するというのです。

上記の情報を読み解くために少し予習し理解の助けとして、現代ラグビーの中での 21 世紀ラグビーの胎動から発動への歴史経過を辿り、問題点とその方向性に対する認識を高めておきましょう。

1945 年	第 2 次世界大戦集結。欧州各国の荒廃はスポーツの低調をきたした。一方南半球の遠隔地では順調に発達していた。
1945-1960 年	現代ラグビーの胎動 大戦の荒廃から立ち上がり、RFU 奮起は新しいラグビーへの目覚めを促し Rugby is enjoyment. という叫びから、遠隔地の自由な発想を取り入れ、不定型で運動量大きい、flair & power のラグビーを作り出していきました。平和でエネルギーの充実と併せて、practice, training, exercise の前面に fitness の思想と方法を強かに打ち出し、体力の増強の体制を確立をはかりました。小さな技術もテクニックではなく、相手との対応を含むスキルを強調しました。
1966 年	The Guide for Coaches による推進をはかりました。 ラグビーは running handling game であるという共通認識を固めるとともに、enjoyment を求める道筋に good, bright, interesting rugby を目標にしました。
1971 年	RFU 100 周年が盛大に開催され世界は普及発展を祝い団結をかためました。 RFU 中心から iRB の活動中心になっていきました。 W 杯が発議され実現されましたが、それだけでは飽きたらなくなってきました。
1990-2000 年	21 世紀ラグビーの胎動 西暦国には新しい世紀を迎え something を求め加える独特の感覚があり、小改定を経て、ミレニアム改定整理が数年かけておこなわれました。
2006 年	21 世紀のラグビー。2023 年へ向けて発動

見直し発動の原因になっている現状に対し、反省の尺度となる 2 つの要素に焦点をあわせて考え、グループの進む方向と営みを見誤らないようにしなくてはなりません。

1. 「running handling game であるという意識の欠如」
フィットネスの進歩が運動量の増大とタフという範囲をそれて、ぶつかり合いの体力勝負の格闘技になってしまっています。オープンプレーを志向するルールを negative にプレーしています。
2. 「good, bright, interesting rugby でないことの反省」
 - ・ good: ルールをよく守る
ペナルティが多いことはいけません。反則を犯さないだけでなく、ルールの 3 つの意志を生かす意識が欠けている。
 - ・ bright: 明るい、賢い
一言で「暗い」といえないまでも、明るさ、ユーモアという点では問題で、必死が悲壮の段階になっていて、スポーツマンシップも対した思いやりがみられない。プレーも力強さ第一で、例えば、キックについても effectively あることより wisely であることの工夫がみられない。

・ interesting : 面白い、楽しい

勝ち負けをきめるだけの試合が多くおもしろくない。体力勝負場面ばかりで楽しくない。観客も応援チームの勝つことだけを望み、試合の内容お構いなし応援は限定的で、もっと広く大きく目を向けることが期待され、更なるラグビー人口増加が期待ではない。

もう一つの楽しくない原因は、ラグビーがわかりにくいということです。分かりにくいことで試合がよく途切れるということです。ルールを正しく守り皆で競技を楽しむ文化を発展させることにより、更なるラグビー人口増加が期待される。

現代ラグビー第2期の発動へチェンジキアを入れ換えられた転機は、誇りにかけても待ち望まれた W 杯におけるイングランドチームの優勝であることは、世界のバランスのなかで間違いのない事実と言えるでしょう。これまで無かった発想やプレーが、話し合いで解決されローカルルールとなったものが、総括的に議論されて Law になり、プレーヤーが Law に従ってプレーし、そのプレーが一般化していくというラグビーの進化の過程は 10 年のスパンで進行を読まなくてはなりません。そうでなければ常に進化の終末の場面だけを学び真似ることになり、本当に楽しむことができませんし、後進性を脱却できないでしょう。今後このグループの動きに注目しなければなりません。

(*) 関連 URL : <http://www.irb.com/InTouch/Press/060218+dk+laws.htm>

2006.03.03

西川 義行